

授業概要

本科目では、行動実験もしくは質問紙調査（または質問紙実験）を実施した場合を想定した統計分析の演習を行うことで、職場や地域、家庭などで起きる心理的事象を科学的に理解する力を身につけることを目的としています。具体的には、提示される課題に応じて、各自で SPSS などに代表される統計ソフトを操作することが必要な授業であり、デモデータに対応した統計方法を選択し、実際に分析を行い、結果の考察について指導します。演習を通じて、心理学統計の実際と課題について学びながら、心理学的研究が遂行できるスキルの修得をめざします。下記「履修上の注意」に記したとおり、関連諸科目の単位を取得済（履修済は応相談）の学生を対象とした心理学統計の応用科目です。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：心理統計とは
第 2 回	心理統計の基礎
第 3 回	平均値・分散を使った分析（1）： t 検定
第 4 回	平均値・分散を使った分析（2）：1 要因分散分析
第 5 回	平均値・分散を使った分析（3）：2 要因分散分析
第 6 回	クロス表の分析（1）：相関
第 7 回	クロス表の分析（2）：カイ二乗検定
第 8 回	重回帰分析
第 9 回	因子分析（1）：基礎
第 10 回	因子分析（2）：応用
第 11 回	主成分分析・クラスタ分析・判別分析
第 12 回	共分散構造分析（1）：基礎
第 13 回	共分散構造分析（2）：応用
第 14 回	多次元尺度構成法／数量化
第 15 回	まとめ
第 16 回	レポート

到達目標

心理学の実証的論文を執筆するために必要な、データ分析能力、統計結果に関する表現能力を身につけることができる。

履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。授業での課題や討論に積極的に取り組むこと。
- ・「心理学統計法Ⅰ」「心理学統計法Ⅱ」の単位取得者を対象とする。履修はしたが単位を得られなかった（履修済）方は、理解が困難な授業内容であることに留意して頂き、今期に履修を認める場合があります。なお、「心理学研究法」「調査研究法」も履修済であることが望ましい。
- ・演習という性質上、履修者数の制限を行う場合がある。履修許可者の決定は第 1 回授業で行う。何らかの事情で第 1 回の授業を欠席する場合は、事前に担当教員へ必ず連絡すること。
- ・各自で大学のパソコンを使用し演習をしていただく。

予習・復習

- ・予習として「心理学統計法Ⅰ」「心理学統計法Ⅱ」を理解しておくこと。
- ・復習として毎回の資料と課題を振り返ること。

評価方法

授業における課題（60%）とレポート（40%）から総合的に評価する。

テキスト

資料を配布するためテキストは指定しない。授業内で、参考書を適宜紹介する。